

フリーチョイス

石川県を調べよう

発展

解答

組	
番 名 前	

① 石川県の工業の特色と変化

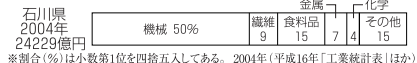
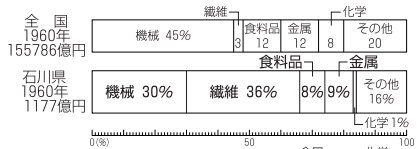
★石川県の工業の特色や変化のようすがわかりますか。

資料を見て、次の各問いに答えなさい。

(1) 資料1は、1955年当時の石川県の工業の工場分布である。この工業を次から選びなさい。

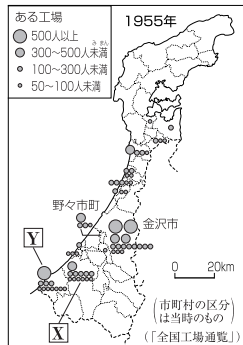
[機械 繊維 食料品 金属] 軽工業に属する工業。

資料2 石川県と全国の工業出荷額の内訳



※割合(%)は小数第1位を四捨五入してある。2004年(平成16年「工業統計表」はか)

資料1 石川県のある工場分布



② (8点×4) (5)は各9点

(1)	織 維
(2)	小松市
(3)	加賀市
(4)	(左の資料2にかく)
(5)	(例)繊維の割合が多く、機械の割合が少ない。
(6)	(例)機械の割合が増え、繊維の割合が減っている。

採点基準 (2)「小松」も可。
(3)「加賀」も可。

(2) 現在、土木機械の日本の代表的な工場がある、資料1の国市はどこですか。

(3) 現在も陶磁器の生産で有名な、資料1の国市はどこですか。

(4) 右の数値は、資料2の1960年

機械30%	繊維36%	食料品8%	金属9%	化学1%	その他16%
-------	-------	-------	------	------	--------

の石川県のものである。この工業製品の順に、石川県のグラフを完成させなさい。

(5) 資料2の1960年の全国と石川県の比べ、石川県の内訳の特色を書きなさい。

(6) 資料2の1960年と2004年の、石川県の工業製品の割合の変化を書きなさい。

② スキルUP ① 石川県の農業の特色と変化

★石川県の農業の特色や変化がわかり、作図して表現できますか。

資料を見て、次の各問いに答えなさい。

(1) 資料1の国川と国平野を、何といひますか。

(2) 資料1の国沼は、干拓によって農地を増やしてきた。何と

いうか、次から

選びなさい。

ア 邑知潟

イ 河北潟

ウ 柴山潟

エ 今江潟

(3) 資料1の

田に、色を

ぬりなさい。

(4) 資料2の

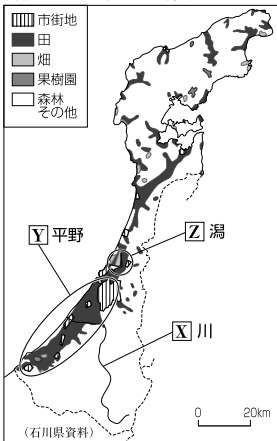
石川県と全

国を比べ、

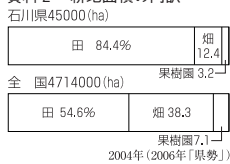
石川県の耕地面積の内訳にはどんな特色があるか、簡潔に書きなさい。

(5) 資料3を見て、石川県の農業生産額の割合の変化を、簡潔に書きなさい。

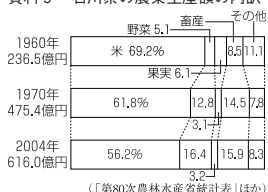
資料1 石川県の土地利用



資料2 耕地面積の内訳



資料3 石川県の農業生産額の内訳



〔「第80次農林水産省統計表」はか〕

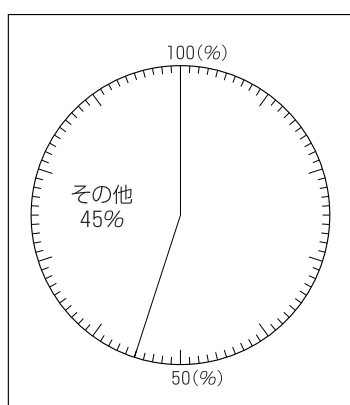
③ 作図をマスター!

右の表は、石川県が日本有数の漁獲量をほこる、海面漁業のぶり類の上位5県の、全国にしめる割合を示したものである。この表をもとに、右の円グラフを完成させなさい。

海面漁業のぶり類の漁獲量上位5位までの県の割合

県 名	ぶり類
島 根	14%
長 崎	13%
石 川	12%
鳥 取	11%
福 井	5%
その他	45%

2004年(「第80次農林水産省統計表」)



答えはおもて面にあるよ!

しっかりCheck! の答え

- ① 棚田(千枚田)
- ② 内灘砂丘
- ③ 両白山地
- ④ 能登地方(能登)
- ⑤ 加賀藩

スッギリ解決!

① (1)(5)(6) 石川県では、明治時代に始まった絹織物業を中心に、繊維工業がさかんになった。しかし、近年、安い海外製品の輸入などにより、繊維工業は、勢いを失っている。

(2) 小松市にある土木機械の企業は、現在、その製品を世界各国に輸出している。

(3) 石川県の陶磁器工業の生産額は、日本有数である。九谷焼は、17世紀に佐賀県の有田焼から技術を学んで始まった。

これもマル ① (5)

(例) 繊維が多く、機械、食料品、金属、化学が少ない。

これもマル ① (6)

(例) 機械、食料品、化学が増え、繊維、金属が減っている。

② (1) 国は石川県最長の河川

で、上水道にも利用されている。国平野をはじめとする加賀地方には、水田が広がり、全国有数の米の産地である。

(5) 1970年ごろから始まった減反政策(生産調整)により、米の生産割合は全国的に低下。

これもマル ② (4)(5)

(4)(例) 田の割合が多い。
(5)(例) 米の割合が少なくなった。